

理念  
支えあい・分かち合い



藤井脳神経外科病院  
〒329-1105 栃木県宇都宮市中岡本町 461-1  
電話：028-673-6211（代）  
FAX：028-673-2115  
E-Mail：fujiihp@apricot.ocn.ne.jp  
ホームページ：http://www.fujiihp.or.jp/

診療時間

○ 診察可 × 休診

| 診療時間                            |    | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---------------------------------|----|---|---|---|---|---|---|
| 9:00～12:00<br>(受付 8:30～11:30)   | 初診 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|                                 | 再診 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 14:00～17:30<br>(受付 13:30～16:30) | 初診 | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × |
|                                 | 再診 | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × |

休診 水曜日・土曜日の午後、日曜日、祝日 \*急患は24時間対応します。

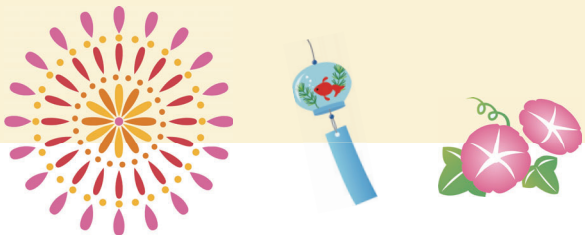
外来担当表

|    | 月       | 火               | 水                  | 木            | 金                    | 土                    |
|----|---------|-----------------|--------------------|--------------|----------------------|----------------------|
| 午前 | 鈴木 博子   | 國峯 英男           | 鈴木 康隆              | 藤井 卓         | 國峯 英男<br>(第 1.3.4 週) | * 坂本 和也<br>(第 2.4 週) |
|    | 田中 裕一   | 鈴木 康隆           | 國峯 英男<br>(第 3 週)   | 鈴木 博子        | 鈴木 博子<br>(第 2 週)     | * 滑川 道人<br>(神経内科)    |
|    | * 坂本 和也 | 交代制             | * 自治医大<br>(てんかん外来) | 西田 舞<br>(内科) | 田中 裕一                | 交代制<br>(第 1.3 週)     |
|    |         |                 | 交代制<br>(第 1.2.4 週) |              |                      | * 交代制                |
| 午後 | 鈴木 博子   | 國峯 英男           | 休診                 | 鈴木 博子        | 鈴木 博子                | 休診                   |
|    | 田中 裕一   | 鈴木 博子<br>(頭痛外来) |                    | 田中 裕一        | 交代制                  |                      |
|    |         | 西田 舞<br>(内科)    |                    | * 獨協医大       |                      |                      |
|    |         | * 獨協医大          |                    |              |                      |                      |

上記の担当は、都合により変更となることがあります。 \* 非常勤医師



藤井脳神経外科病院 地域連携ニュース



2026 年 8 月号

2026 年（令和 8 年）夏号をお届けします。

地震災害や水害などもあり、厳しい暑さが続いています。皆様と共に、暑さに負けぬよう、地域医療の維持をめざして参ります。

この夏号は、「日本臨床脳神経外科学会」での発表に関する報告が中心です。この学会は 3 年前に当院が主催し、宇都宮駅前のライトキューブで開催しました。あの時はお世話になりました。

今回は 8 月 1～2 日に大阪国際会議場にて開催されました。会場受付で配布されていた会員募集ポスターに、当院開催時の職員の集合写真なども掲載されており、驚きました。

この学会の特徴は医師、看護師のほか多職種が共同で討議する場が設けられていることです。医療の現場における悩み、創意、工夫などの数々が提出され、質疑応答も多くなります。

当院からは口頭発表 8 題、ポスター発表 1 題の計 9 演題を持参し、発表して参りました。 日々の診療のご参考になれば幸いです。

理事長 藤井 卓

第 29 回日本臨床脳神経外科学会報告

令和 8 年 8 月 1 日から 2 日に大阪国際会議場で開催されました、第 29 回日本臨床脳神経外科学会に参加しました。

当学会は“新たな地域医療構想におけるチーム脳神経外科の役割”をテーマとして、医師だけでなく看護師やコメディカルなどの医療スタッフが共に参加・議論し、多職種が一丸となった総合的な脳神経外科医療の発展を目指す学会です。今回私は医療安全セッションの発表および座長として参加しました。セッションでは臨床検査技師の視点からの経鼻経管カテーテルの安全な挿入に向けての取り組みや、理学療法士の視点からの転倒転落予防への取り組みなど、複数の職種が集まり、院内のみでは感じる事ができない意見や考え方、理学療法士などの職能学会では聞く事ができない意見や工夫などを学ぶことができました。



医療安全管理室長：丸山 慶久

私も日常生活活動（ADL）の評価から医療事故やインシデント発生の予測可能性に関する発表を行い、他施設の看護師からの質問や意見に対する情報交換ができ、大変有意義なセッションとなりました。今回の学会参加で、一つの視点より複数の視点から考える事でより安全で質の高い取り組みが出来る事を改めて学びました。今回の経験を院内の活動に繋げるとともに、今後の学会等で当院の取り組みを発信できればと考えています。

（裏面に続く）



## 脳神経外科医療のトピックス（36）

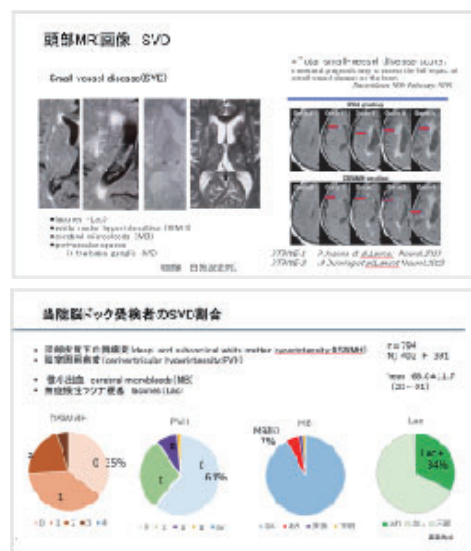


「脳ドック受診者における食塩摂取量と採血、画像所見との検討」

脳神経外科医師 鈴木 博子

脳ドック学会では、「脳卒中・認知症予防のための医学会」と副題がつき、現在は脳卒中と認知症を含む脳疾患の早期発見と早期管理および予防のための食事・生活指導を実践することが目的とされています。今回は減塩の意義について発表しました。

当院の脳ドック受検者 1134 人の食塩摂取量の平均は男性 10.3g 女性 10.2g と目標値 6g よりも多く、収縮期血圧と食塩摂取量は相関関係にありました。受検者 794 人の身体採血検査結果との解析では、BMI と LDL コレステロール値が食塩摂取量と相関関係がみられました。また、MRI 検査において脳小血管病所見があることで脳卒中や認知症の転帰が悪化するといわれています。当院データの解析結果では、脳小血管病増加は、高齢、高食塩、高血圧が影響因子として挙げられました。脳ドック時に食塩摂取量を測定し、減塩と血圧管理指導することは、脳卒中・認知症予防として重要であると考えられました。



「回復期病棟における脳卒中患者の頻尿に対する骨盤底筋訓練（PFMT）の効果について」

看護部 田名部 玲奈

回復期リハビリテーション病棟において、対象患者 6 名に骨盤底筋訓練を 4 週間実施したところ、日中の排尿回数や失禁回数の減少がみられました。看護師が主体的に行える非侵襲的介入としての有用性が示唆されました。



「脳神経外科救急病棟における看護師の身体拘束最小化にむけた取り組み」

看護部 金子 沙樹

脳神経外科病棟の看護師 24 名を対象に、身体拘束実施に関連する要因を調査しました。分析の結果、「身体拘束に対する看護師の考え方」がもっとも強く反映されていると考えられました。実施有無に担当看護師の個人差をなくすためにも、教育や判断に至るまでの相談や代替方法の共有の必要性を感じました。

「脳ドックにおける事務部門の役割拡大と受診者満足度向上への取り組み」

総務課 星野 朋美

事務部から脳ドックの取り組みを発表しました。2024 年から脳ドック認定士制度が導入され、当院では総務課 2 名が脳ドック認定士として活躍しています。総務課が主体となり、多職種連携にてスムーズな受診と充実した内容の提供につなげました。受診者満足度アンケートでは、好評をいただくことができました。

「電子カルテ乗り換えに伴う文書管理体制の再構築  
ーQR コード導入による業務効率化ー」

医事課 白土 翔

電子カルテの乗り換えに伴い、医療文書の全面的な見直しを行い、その改善策を発表しました。文書の整理と統一化、フォルダ階層再構築、QR コード導入を行い、院内全体の業務負担の改善と安全な文書管理に寄与したと考えています。

「退院時リハビリテーション指導料に関する運用の検討」

医事課 渡部 麻美

退院時リハビリテーション指導を行っているものの、算定に結びつかない事例を経験し、改善策とその効果を発表しました。部署を超えて多職種にて、算定要件の見直しやマニュアル作成を行い、適切な退院時指導を行い、また正確に算定していくことが可能となりました。

「返書率 100%を目指して」

医事課 柴田 舞那

紹介患者の返書作成と発送について、手順の見直しを行い発表しました。電子カルテにて新しい「紹介状アプリ」を用いることで管理が容易となり、医事課において責任担当者を配置しマニュアルを整備することで、迅速な返書発送に繋げることができました。

「転倒カンファレンスの検討視点の変化による複数回転倒減少」

リハビリテーション室 山中 映弘

回復期病棟の脳血管障害患者 51 件のうち、複数回転倒する患者を抽出し要因分析を行いました。転倒リスク分析結果を用いて、転倒予防カンファレンスを多職種にて行うことで、異なる視点で転倒対策を強化することが可能となり、転倒予防の成果を得ることができました。

「FIM を用いた脳神経疾患患者のインシデントリスク評価モデルの構築」

医療安全管理室 丸山 慶久

脳神経疾患患者のインシデント群と対照群において、FIM 点数の比較を行いました。インシデント群は、合計 FIM、運動 FIM、認知 FIM にてそれぞれ対照群と比較し低値でした。また、離棟症例や管の自己抜去症例などのリスクとなる因子を解析し、FIM 点数から予測される安全管理評価モデルの構築を検討しています。



### お知らせ

今月は、中学生高校生向けに病院体験実習を行いました。  
次世代の医療の発展につながる様、当院も引き続き取り組んで参ります。  
次回は脳卒中診療について掲載予定です。